「第13回キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）中国」表彰式

平成 27 年 1 月 21 日（水），広島市において，第 13 回ｷｬﾝﾊﾟｽﾍﾞﾝﾁｬｰｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ中国（以下，CVG 中国）の表彰式を開催した。CVG 中国は，中国地域の大学・高専等の学生を対象に，起業家精神を醸成し，創造性・チャレンジ精神に富んだ人材を育成することを目的として，新事業・商品のアイデアやビジネスプランを募集・表彰するもので，当連合会，日刊工業新聞社，中国地域産学官ｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝ会議（※）などで構成する実行委員会（委員長：山下当連合会会長）が運営している。第 13 回となる今回は，80 件（14 校）の応募があり、その中から最優秀賞など 15 件の受賞プランを表彰した。

※中国地域の産学官連携を推進する主要 87 機関による組織体。当連合会ほか 3 機関が事務局を務める。

◆主催者挨拶

主催者を代表して，当連合会 産業・技術委員会の金井委員長から，「今回、応募をいただいた８０件のビジネスプランには高齢化対策や、福祉、地域振興等、今日の中国地域が抱える社会的課題解決に関する提案が多く含まれ、学生の皆さんの問題意識の高さを改めて認識した。今後、実際に事業を起こすとなると困難な課題もでてくるであろうが、昨年ノーベル賞を受賞した天野教授は講演の場で、青色ＬＥＤ開発の裏には１５００回以上の試行錯誤があったと述べられ、粘り強く挑戦することの重要性を強調されている。今回受賞した方も、惜しくも逃した方も、引き続き粘り強く事業化に向けて挑戦し、社会に貢献して欲しい。」と挨拶があった。

また，日刊工業新聞社の井水社長より，「グローバルな競争が激化するなかで日本の再興に向けて若い人の力が必要と考える。単なるアイデアにとどまらず、壁を乗り越えて、是非、起業に結びつけて欲しい。」とエールが送られた。

その後，各審査委員の紹介に続き，15 件の受賞プランの提案者に対して，それぞれ賞状と副賞が授与された。

◆審査委員長講評

各賞の表彰に続いて，審査委員長を務めていただいた島根県産業技術センターの吉野勝美所長から，「若者らしい柔軟な発想が多く、また、女性の頑張りもあり心強く感じた。今後はさらに、常識にとらわれない大胆な発想で取り組んで欲しい。」と講評をいただいた。

◆最優秀賞プレゼンテーション

＜テクノロジー部門＞

『聴覚障がい者を対象とした音声情報の振動呈示装置～２つ目の新たな聴覚をあなたに～ 』

広島市立大学　岩瀬 大祐 さん、室瀬 一眞さん

聴覚障害者向けに、指にはめた振動装置で会話中の音量と発音を認識する装置を開発した。骨や筋肉の動きから自分の声に反応して指輪が振動する仕組み。使用者はその振動のパターンで自分がいま何の音を発しているのか理解し、さらに振動の大きさで音量を確認できる。従来の「発生音量をランプを見て確認する装置」のように視覚を確認装置に奪われないため、相手の目やジェスチャーを見て会話ができ、相手の言葉をより深く受け取ることができる。さらに、支援装置をつけているという外見上の違和感がないという手軽さも利点となる。試作品を早期に完成させて１年以内の製品化を目指す。

＜ビジネス部門＞

『お土産カタログ 』

松江工業高等専門学校

田中 直樹 さん、石倉 祐貴さん、

加藤 涼子さん

観光地で見つけた土産品の候補をQRコードや写真等を用いてスマートフォンのアプリ上に記録し、カタログを作成。観光後に知り合いなどに送り、受け取った相手はカタログの中から好きな商品を注文することができる。これにより受取者は旅行者が選んだ複数の候補から欲しい品物を選べ、せっかくお土産をもらったのに好みに合わないものを受け取るという失敗がない。旅行者自身も旅行中の荷物を減らすことができ、また、現金の支払いも旅行後に一括ででき、観光旅行を十分に楽しむことができる。

◆記念講演会

甲南大学経営学部教授の安積俊政氏をお招きし,『現地１００社の実態調査から読み解く中堅・中小企業のアジア進出戦略』と題して講演いただいた。

［講演概要］

近年、アジア（特に中国、インド）の経済規模、存在感が急速に高まってきている。日本のGDPは、かつて世界の１７％を占め第２位であったが、バブル崩壊後には後退し、２～３年後にはアジアの１７％となる見込み。まだ世界第３位とはいえ、第２位の中国の半分になる。もはや日本を中心にアジアが回転していないことをまず認識する必要がある。

国内市場伸び悩みの下では、海外進出しなければ均衡縮小の末、自然淘汰されるのを待つことになる。今必要な事業シナリオは、海外市場開拓や海外生産進出により事業を拡大することであり、拡張を続けるアジアへの日本企業の進出が進んでいる。２１世紀の日本企業は大企業か中堅・中小企業を問わず、「アジアで稼げない企業は、生き残れない、勝ち残れない」「アジアで勝てない企業は、本土防衛ができない」ということである。

一方、海外進出するリスクもある。特に中堅・中小企業は海外展開の経験がないか浅いため潜在的なリスクが読めていない。日本の企業は、ものづくりは優秀であるが、良いものをつくれば経営がうまくいくわけではない。成功企業、ユニークな企業は脚光を浴び、新聞や論文・雑誌でも大きく取り上げられるが、その裏側には極めて多くの事業撤退、事業売却が行われているのが現実である。海外進出企業には現地政府やコミュニティへの対応、労働組合との交渉、経営全体の見通しなど、つまずく要素が多々ある。企業は海外進出する前と後、撤退する際の事業の各段階の基本的な検討チェックリストを持っておくべきである。銀行やジェトロ、中小機構などに様々なチェックリストが存在するので是非活用して欲しい。悲観的になる必要はなく、しっかりと現場・現地を見て、日本の実態を知り新しい目で取り組めば海外での事業展開は十分に成功できる。

本日のCVGの表彰・発表をみて若者には無限の可能性があることを再認識した。学生の皆さんには、世界、特にアジアの情勢をしっかり勉強したうえで、自分の意欲・能力を活かすには今がチャンスと考えて、起業に挑戦して欲しい。

◆受賞祝賀会・交流会

記念講演会の後は,「第13回CVG中国受賞祝賀会＆2015年中国四国産業人クラブ春の交流会」が盛大に開催された。祝賀会・交流会には,CVG中国の各賞を受賞した学生も参加し，会場の至る所で活発な情報交換が行われた。起業を目指す学生からの、製品化時のメーカー探しや資金調達等の悩みに対して、産業界からの出席者がアドバイスする場面もあった。この交流が学生と関連企業・支援機関等の出会いのきっかけとなり、ビジネスプランの実現につながることを期待している。

【田村興造 中国四国産業人クラブ会長（広島ガス㈱社長）の挨拶】

（担当：有馬）